【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	群馬県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	桐生市立北小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	３	１	２	２	１	１３	２０
児童数	５７	５６	８４	４０	７６	５６	４	３７３	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成
―― 個に応じたきめ細かな指導を通して ――

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

１～６学年の算数で実施。
次の３点の理由により、本校では算数科を中心として研究を推進している。
○　算数には、内容の系統性が明確であるという教科の特性がある。新しい内容を学習する場合、それまでに学習したことを基にして、それを発展させながら学習を進めていくことが多い。そのために、各学年で学習する基礎・基本を確実に身に付けさせることが必要である。
○　学習内容が「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」という４つ領域に分かれ、児童の理解や習熟において、つまずきが生まれやすい教科である。そのために、個に応じたきめ細かな指導に努める必要がある。
○　本校では、一昨年度より３年生以上の算数において、少人数指導を導入している。そのために、研究を推進していく上での基盤ができている。

(2)　年次ごとの計画

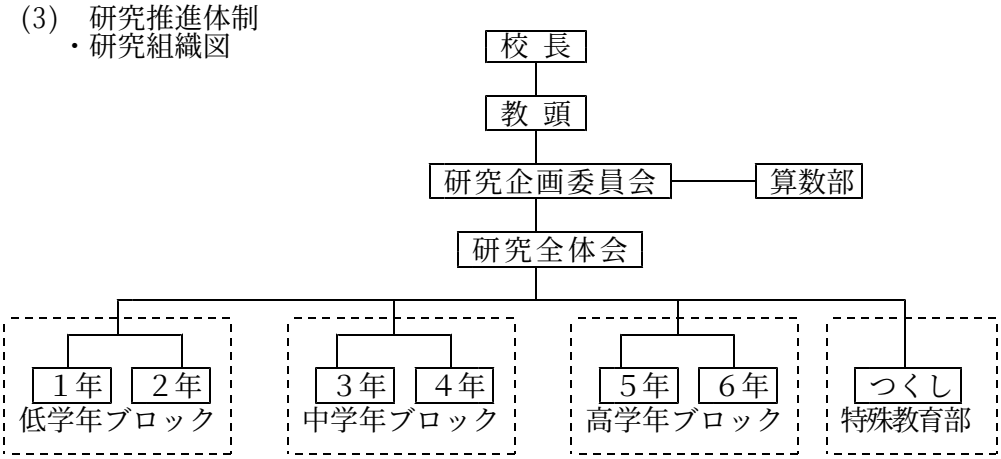
平成15年度

○　テーマ
確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成
―― 個に応じたきめ細かな指導を通して ――
○　仮説
次のような手だてで、個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善を行うことにより、確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組める児童を育成することができるであろう。
①　算数科におけるティーム・ティーチング指導や少人数指導による指導体制の工夫・改善
②　確かな学力を向上させるための指導方法の工夫・改善
③　主体的に学習に取り組める力を育成するための評価及び指導に生かすための評価の工夫
○　研究の内容・方法
①　算数科におけるティーム・ティーチング指導や少人数指導による指導体制についての工夫・改善
②　確かな学力を向上させるための指導方法についての工夫・改善
ア　問題解決的な流れを取り入れた授業の展開の仕方
イ　発展的・補充的な学習など個に応じた指導方法
ウ　算数的活動を取り入れた単元構成の工夫
③　主体的に学習に取り組める力を育成するための評価及び指導に生かすための評価についての工夫
ア　自己評価カードの活用方法
イ　座席表・チェクリスト等の活用方法
ウ　診断的・形成的・総括的評価の方法

	④　家庭・地域への啓発 ア　学校だよりの発行 イ　授業参観等での授業公開 ウ　懇談会においての情報提供 エ　ホームページの活用

平成16年度	○　テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成 ―― 個に応じたきめ細かな指導を通して ―― ○　仮説 次のような手だてで、個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善を行うことにより、確かな学力を身に付け、主体的に学習に取り組める児童を育成することができるであろう。 ①　算数科におけるティーム・ティーチング指導や少人数指導による指導体制の工夫・改善 ②　確かな学力を向上させるための指導方法の工夫・改善 ③　主体的に学習に取り組める力を育成するための評価及び指導に生かすための評価の工夫・改善 ○　研究の内容・方法 ・平成１５年度の内容をさらに修正しながら、実践を積み上げていく。 ・２年間の研究のまとめをする。

(3)　研究推進体制
・研究組織図



※研究の主体は各学年とするが、必要に応じて学年ブロックで行う。
※特殊教育部員は必要に応じて、各学年、学年ブロックに所属する。
※加配教諭は、各学年にも所属する。
※算数部は、ティーム・ティーチング指導や少人数指導、個別指導についての計画・実践を行い、学習指導方法改善の中心的役割を果たす。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　２学年以上の学年では、単元の構想を練る中で、ティーム・ティーチング指導、均等割少人数指導、習熟度別少人数指導、課題別少人数指導、学習スタイル別少人数指導のいずれの指導形態が効果的かを学年で検討し、学習過程の適切と思われる場面に応じて指導形態を変えてきた。このように、児童の習熟度や興味・関心等の実態や学習内容に応じて指導形態を変えていったことで、児童一人一人が主体的に学習に取り組めるようになり、学習内容の確実な定着を図れるようになってきた。また、指導計画を基に、学年担当の教員が指導についての話合いをもち共通理解を図ってきたことは、授業の中での児童のつまずきをとらえるだけでなく、教材研究を深め、指導方法の改善にもつながっていった。

○　少人数指導の一つとして、学年によっては児童の興味・関心に基づいてコースを選択させる課題別コースを行った。例えば、６学年の『比』では、「国旗

作りを通して、等しい比について見直すコース」と「紫色のコマ作りを通して円全体に対する赤と青の比を表すコース」と「与えられた分量を示された３連比に分け秘薬を作るコース」を設定して授業を進めた。児童は、自分の興味・関心のあるコースのため、意欲的に学習を進めることができ、比を日常生活の中で活用したり、比を使うことのよさを感じたりできることにつながった。

○　１時間ごとに、この時間は何の学習をするのかを具体的に明記した、学習プラン（自己評価カード）をもたせた。これを教員が毎時間授業後に目を通すことで、その児童が分かりにくかった内容をとらえることができ、次の時間に支援をする上で役に立った。また、児童は自分の学習の様子を振り返り、しっかり理解できた内容やちょっと自信のない内容などを記述することで、自分の学習状況をつかみ、次時の学習への構えができるようになってきた。

「時間と時こく」学習プラン　　３年　組　名前

学習時間	学習をした日	学習の内容	学習のふりかえり：完ぺきに分かった！	まあまあ大じょうぶ	ちょっと自信がない	感想（かんそう）
①	／	◇時計を見て、時こくを読むこと。 ◇長いはりが１めもり進む時間。 ◇かけっこした時間。				
②	／	◇長いはりが１回りする時間。（何分間。何時間） ◇ある時間がたった時こく。ある時こくまでの時間。				
③	／	◇１日の時間。 ◇午前・午後をつけて、時こくを表すこと。				
④	／	◇ある時こくから何時間後（前）の時こくやある時こくからある時こくまでの時間。				
⑤	／	◇ある時こくから何時間後（前）の時こくやある時こくからある時こくまでの時間。 ◇「時間」や「時こく」の言葉の正しい使い方。				
⑥	／	◇分より短い時間をはかる方法。				
⑦	／	◇ストップウォッチで短い時間を正確（せいかく）にはかること。 ◇時間を○分○秒で表すこと。				

＜全体の勉強を通しての感想＞

○　子供がその単元の学　習内容をどの程度習得しているか、１時間１時間の学習状況はどうかなどを保護者に知ってもらうために、学習プラン（自己評価カード）を単元終了後に、児童に家庭へ持ち帰らせた。この取組はまだ始めたばかりで、成果ははっきりしないが、児童の学習状況を保護者に伝えることで、保護者に児童の学習活動への関心を喚起したり、家庭学習を進める上での参考にしてもらったりと、家庭との連携を図りながら、児童の主体的に学習に取り組める力を育てることにつながっていくものと考える。

２．今後の課題

○　本校に配置されている２名のきめ細かな指導に係る加配教員を、１名ずつ各学年に入れ　ながら、指導形態や指導方法についての話合いの時間をもってきたが、きめ細かな指導に係る加配教員Ａ（３、４、５年）ときめ細かな指導に係る加配教員Ｂ（１、２、６年）が、それぞれ３つの学年にかかわっているため、話合いの時間を確保することが大変であった。今後、話合いの時間を確保する方法を検討していく必要がある。

○　習熟度別学習においては、コース選択のための観点を与えて児童自身に選択させたが、自分に適したコースを選択できない児童が２割程度いた。今後もこのような経験を積ませるとともに、低学年でも無理のない適切な観点の与え方を工夫していく必要がある。

○　４学年は、40人１クラスの学年であるため、習熟度別少人数指導や課題別少人数指導のグループ編成を計画すると、人数の偏りが大きくなってしまう。そのため、20人２グループの均等割少人数指導で進めることが多いが、今後どのようなグループ編成のしかたが可能であり、有効かを検討していく必要がある。

○　今後も本校の目指す児童に迫るために、授業実践を積み上げ、児童にその単元で身に付けさせたい力を明確にしながら、効果的な「発展的な学習」と「補充的な学習」の方法を取り入れた学習を展開していく必要がある。

○　今後も学習プラン（自己評価カード）を継続して活用し、指導と評価の一体化に努める。また、家庭との連携を図りながら児童の主体的に学習に取り組める力を育成していくための一手段として、学習プラン（自己評価カード）を継続して活用し、有効性を探っていく。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　ＣＲＴ学力検査の実施
平成15年７月４日（金）　前学年の学習内容についての定着度を把握する。
平成16年２月25日（水）　今年度の学習内容についての定着度を把握する。

○　事前テスト、事後テストの実施（各単元ごと）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　平成１５年度　算数科公開授業（桐生市内）
　・平成16年２月４日（水）
　・１学年　『ひきざん(2)』　ティーム・ティーチング指導
　　３学年　『重さ』　　４つのグループによる少人数指導
　※フロンティアティーチャーによる授業の実施
○　平成１６年度　算数科公開授業予定（東部管内）
○　ＨＰで研究内容を公開予定
○　市教育委員会、市の教育研究会発行の教育情報誌に学力向上フロンティアスクールへの取り組み内容を記載。
○　学校だよりで保護者に説明（随時）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
☑１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☑算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□無